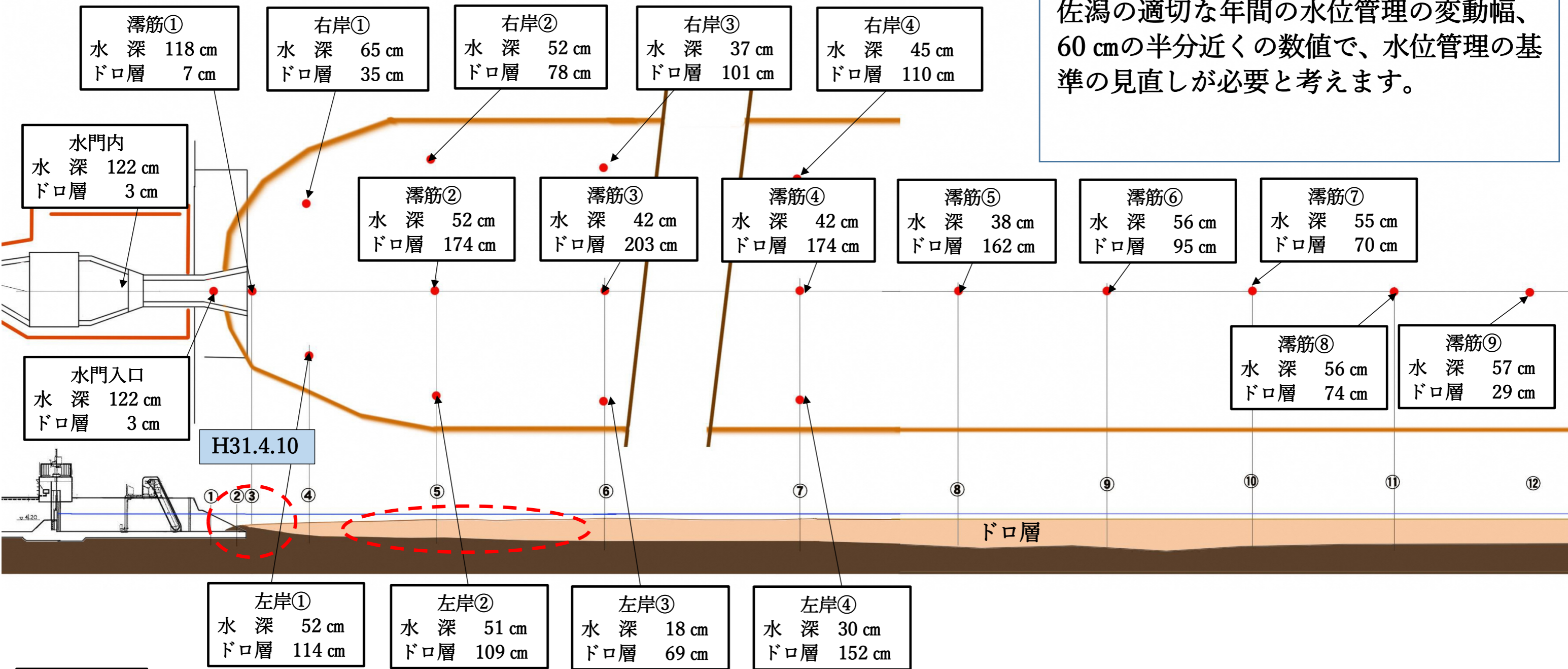


佐潟水門付近調査 R4.5.21

当日の水位標高
4.20m

メモ
今回初めて佐潟の水面標高を計測した。結果、予想外の約 25 cm下がっていた。佐潟の適切な年間の水位管理の変動幅、60 cmの半分近くの数値で、水位管理の基準の見直しが必要と考えます。



調査結果

R4.5.21

3年前水門入口を塞いでいた固い土砂は無くなったが、水門から佐潟橋の水の流れが緩いため滞筋の水深は 38 cm～55 cmと浅い。その滞筋の下に 1.5m～2mのドロ層が堆積し、下潟のドロの流れを阻んでいる。左岸、右岸ともこれまで同様にドロ層が堆積している。現在の水門操作だけでは潟の上水のみが流れるだけで、ドロ層は動かない状況にある。佐潟の泥を下流の広通川を通じて新川に流す負荷も考慮しながら佐潟橋内のドロ層を下流に流すことが水質改善の急務と考えます。

